

片所谷戸の タマノホシザクラの大木

写真は、片所谷戸緑地の東側棚のタマノホシザクラの大きな木です。幹回りは60センチ、樹高は12～13m位(?)もあり、樹齢はもちろん分かりませんが、谷戸内でダントツ一番の大木です。この場所はタマノホシザクラの自生地・群生地となっておりこの木を中心にたくさんの子どもたちが生育しています。なぜ貴重な絶滅危惧種のタマノホシザクラが片所谷戸緑地に多く生育しているのか科学的説明は専門家にお任せするしかありませんが、このような木が親木となり、多くの子が生まれ育ち、その孫、曾孫と谷戸全体に子々孫々と種をつないできたのではないかと思います。撮影時花が満開でした。二本の太い枝は多分台風とかで折れてしまったようですが、風雪に耐えこれからも末永く谷戸を見守り続けてくれることを願うばかりです。

谷戸には、この場所以外に二ヶ所の群生地があります。一つは、対面の西側斜面の雑木林内です。コ木

ナラなどの樹木やササが覆われ生育環境が良くありませんがしたたかに育っています。もう一ヶ所は町田市の「小山ヶ丘3号緑地」です。ここは10年前に他の群生地から移植したものが見事に成長し、多くの子どもの苗がクローン繁殖しています。日当たりが良いことと定期的な下草刈りが良い結果を生んでいることとします。道路際のため観察には好立地です。

タマノホシザクラについて

東京西部の多摩丘陵で2004年に発見された新種で野生のサクラの一種です。約一万年以前(縄文時代前)にエドヒガンザクラとマメザクラが交雑して生まれたものです。種子ができず根から子株が成長するクローン繁殖のため地域的に限定されます。八王子市(多摩ニュータウン)と町田市の片所谷戸に全部で17本しかなく、しかも、多くが人的植栽で自生地は片所谷戸にわずか残っているとの報告があります(首都大学東京の研究者より)そのため希少価値が極めて高く**絶滅危惧種1A類**に分類されています。なお、以前はタマノホシザクラはヤブザクラの一種と言われていました。その違いは次ページに。



満開の花



(2020.03.24撮影)

タマノホシザクラとヤブザクラの相違点

	タマノホシザクラ	ヤブザクラ
花の形	かかえ咲き	ひら咲き
花びらの色	濃い淡紅色	白か淡い紅色
花びらの形	楕円形でやや内曲	広楕円形で平ら
愕(がく)の色	濃い紅色	紅色又は綠色
愕(がく)の形	星型	卵型

谷戸の様子



片所谷戸緑地の周辺はすっかり様変わりしました。3年前の秋から始められた小山区画整理事業も完了し、造成された宅地に新築の住宅がたちまち建ち始めています。谷戸は住宅や事業所などに囲まれたポツンと残された貴重な緑地帯となりました。既存の小山ヶ丘3号緑地と合わせても1万㎡あまりと広大な広さではありませんが、これからも、ホトケドジョウやサワガニもたわむれ、夏にはホタルが飛び交い、春にはサクラやすみれが咲く四季折々の自然の姿を見せて地域住民の憩いの場になることと思います。一度訪れてみてください。

* 谷戸の入口が整備されました



福生寺墓地側の入口。スロープもあります。



多摩境通り側からの入口

お知らせ

例年、ホタルが5月末頃から飛び始まります。6月には徐々に増え始め、7月上旬までが飛びます。今年はどうでしょうか。飛翔状況はホームページでお知らせします。